

巡る。 登録有形文化財



京都大学には現在、登録有形文化財に指定されている建造物が11施設あります。今回はその中の3施設を紹介します。(くじら)

東アジア人文情報学研究センター



北白川の閑静な住宅街に、突如として現れる白亜の教会——それが今回訪問した東アジア人文情報学研究センターだ。この施設は昭和5年に東畑謙三氏の設計で建てられ、平成12年に文化庁「登録有形文化財」に指定された。スペインの教会をモデルにした設計で、塔や回廊、中庭をそなえた風格ある建築となっている。内装もアーチ型の装飾や象皮張りのソファなど、昭和初期の贅を尽くした重厚な味わいがある。

この施設では創立以来、変わることなく中国学の研究が行われてきた。近年ではインターネットを通じて、研究所の所藏品や研究成果をより広く世界に発信している。

「先人たちが積み重ねた伝統あるこの施設にいますと、よい論文を書いたり、優れた業



績を出したりすること以上の、違う何かを求められていると感じます」と、センター主任の井波陵一教授は語る。

中国学研究の拠点であるこの施設には、古書を中心に漢籍が数多く収蔵されており、その蔵書は質・量ともに世界有数の規模を誇っている。また、館内の閲覧室ではそれらの資料を自由に閲覧することができる。歴史の重みを感じさせる建物の中で、古書に触れる体験は格別だろう。ぜひ足を運んでもらいたい。

- ・図書閲覧室開館時間
9時～16時30分
(閲覧受付は16時まで)
- ・開館日
原則として月曜日～金曜日
- ・館外貸出
不可。館内閲覧、複写のみ。
- ・電話番号
075-753-6990

東アジア人文情報学研究センター



本部構内正門



▲明治26年、旧第三高等学校時代に建てられた。京都大学創立後も京都大学の正門として使用され、当時の面影を残している

尊攘堂



▲吉田松蔭の遺墨類を納めるため、明治36年に建築された。現在は附属図書館横で、文化財総合研究センター資料室になっている

はみだし
すてーじ

自主休講できる根性が欲しいです。
⇒必要なのは根性ではなく、あきらめです。

(理・3 右向け左)
(あとあえて先を見ない力；編)